明德中学校

福祉体験学習を終えて

明徳中学校　三学年　葛西　愛璃

福祉体験学習を終えて、ふじレは本当の家みたいな雰囲気があるなと思いました。まず最初に中を見学した時にソファーやテーブル、テレビなど普通に家で使う物がいっぱい置いてあってびっくりしました。一人一人の部屋は畳の所もあれば、フローリングの所もあってその部屋を使う人の好みに合わせているのかなと思いました。また部屋の中には、その人の彰状や写真などたくさんの想い出にあふれていたと感じます。べッドとかお風呂とかも、安全に使えるように低くしてあったりすぐ滑り止めが敷いてあったりでしすごく使いやすそうだなと思いました。他にもお風呂に行く用の水に濡れても良い車いすや寝たまま入れるお風呂があって便利だなと思いました。体を動かす場所があったりしてよく考えられていると思いました。

ふじレで一番長生きしている一〇一歳のおじいちゃんがとても一〇一歳には見えないぐらい若くしかったです。一緒にカルタ

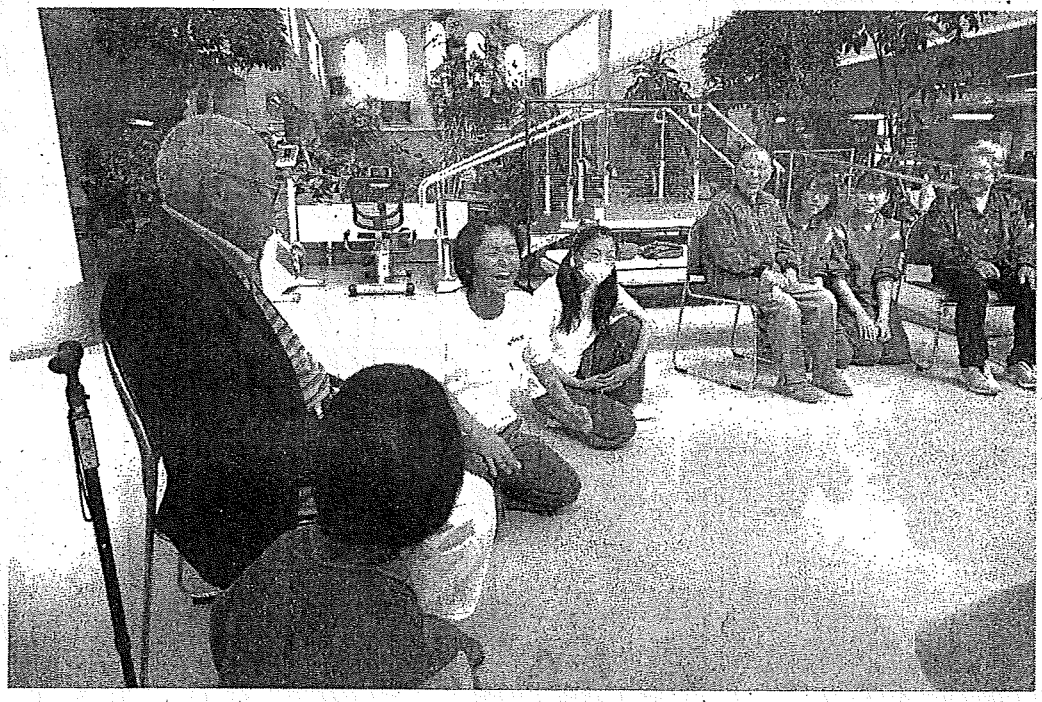
やはらでりやるおんる手遊んの声がっと佐々木さんは、相手に人が同時に紙のと

風コらすおばあ時玉すんでしたけ木ルタ。ていたのと

船ミやおお手ちゃ人ないるけ土ルだ中ったのがと

で ュ ることが玉が ちゃ ない ましょ が ん ダ で も ま ん ま ん ま ん

で自分より元気な気がして、元気を与える前に逆に元気をもらった気がします。なのでおじいちゃんおばあちゃんの元気に負けないよう に私も元気に過ごします。職員の人達は、たくさんの仕事があり ながらも元気いっぱいなおじいちゃ ん、おばあちゃん達とお話したり遊んだりしていて、職員の人達 もおじいちゃん、おばあちゃんの 元気をもらっているのかなと思い ました。元気いっぱいのおじいちゃ んとふれあえて楽しかった。短い時間だったけどとても楽しい経験になりました。



福祉体験学習を終えて

明徳中学校　三学年　藤林　彩

福祉体験当日、私は「お囃りや」とりとりレをする班でした。色々な話を用意していましたが、やはり耳が聞こえない方や、目があまり見えない方が多くいらっしゃった。ので、練習の流れ通りスムーズにはいきませんでした。それでも、しりとりや歌を歌ったりして楽しんでいただきました。予想していたより言葉がハッキリしていたり、体操の時しっかり体を動かせる方が多かったので嬉しく感じました。

年齢をたずねてみると八十代から九十代、中には九十九歳のすごく高齢な人もいらっしゃいました。津軽弁で会話をしていると相手との距離が縮まって方言っていいなぁと思います。

最近、テレビなどでは「短命県返上！！」というテーマで目標をよく耳にします。それは、青森県の平均寿命が短く、全国ワースト一位のためです。その汚名を返上するために掲げられているテーマですが、私は青森県にも充分長生きの人はいると思います。長生きするのは良いことで、長生き

たいと思うのも、良いことですが、私はてさんふじしに居た人達の様に、明るく人生の内容が濃いことの方が大事だと思います。ただ長生きするのではなく、人生に生きがいを見出し、最期の時まで充実して、笑顔になれるようにこれから自分の人生が濃く、良いものになるように精一杯生きようと思います。まずは受験生として、がんばります。

今日の体験で、感動したり、考えることがたくさんありました。貴重な体験が出来て良かったです。こういう機会を与えてくださった、さんふじさんに感謝しています。

福祉体験学習を終えて

明徳中学校　三年A組

久保田　朱音

さんぢじには、たくさんのおじいちゃんおばあちゃんがいました。私達みんなが元気で明るく、私もおばあちゃんになったら、笑顔で同じの人まで元気にすたちが、できるようになりたいと思いました。帰り際に、合唱したことを、福祉体験学習をしていて良かったと思いました。

明中三年生にパワーをくれました。

みんなが元気で明るく、私もおばあちゃんになったら、笑顔で同じの人まで元気にすたちが、できるようになりたいと思いました。帰り際に、合唱したことを、福祉体験学習をしていて良かったと思いました。

また、介護師さんの仕事も見ることができて、将来のことについても考えることができました。

老人ホームの方々へ一つ一つの気遣いが感じられました。

お年寄りの方々へ温かい場所だなと感じました。

私へ手をホッケーゲームでは、高齢者へ方々、学生のみんなも本気をしました。中熱戦いとなりました。準備に、合唱ことができました。

ゲームの前にストレッチをしたりしたりしたり

もしました。車いすを押してみる

こもしました。

初めてお会いしたとき、顔を不切にすることで、誰にでも平等に接することが大切や。

まだ、お別れのとき、自分にとってのいちばん大切な人を握手をしました。

ちゃんと握手をしました。

二日くらいの頻度で帰ってくるのに、一週間ぐらいしかいられなかったことが、とても楽しかったことを思い出です。

でおじいちゃんに優しく接するように、ちょうと思いました。

トうにこちらから会いに行ってください。

きっとありがとうございました。

こへよう体験をさせていただいた。

「自分もし」

明徳中学校　三年A組

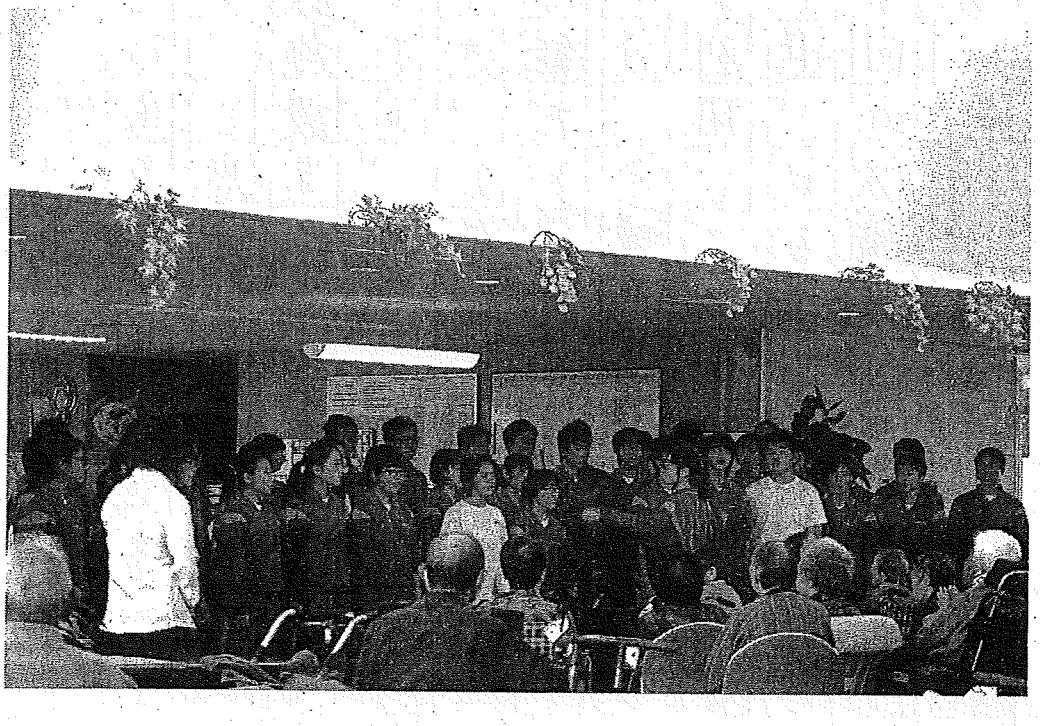
佐藤　亜紀

今回のこの体験で本当に勉強になったことがたくさんありました。場所案内の際、いろいろなお年寄りの方にお会いしました。そのとき思ったのは、みなさん明るくてあいさつしたら返してくれて、優しい方がたくさんいらっしゃって元気な人達だなあ、と思うような雰囲気がありました。

一部屋一部屋とても広くて、車イスがまわせるような広さがあり、四人部屋のところは広くて太陽の光が入ってて、明るかったです。廊下も太陽の光が入っていて、電気だけの明るさではなくて、外に出ることができなくても太陽の光を浴びることができていいな、と感じました。浴室は車イスがあり体が少し不自由な人でも座れるためすごく便利に入浴できます。特別（特殊）浴室には普通の浴槽より二倍ほどの浴槽があり、寝たきりの人でも入ることのできる浴槽だと知ったときは、お年寄りの人たちのためにたくさんのものがつくられていると感じ、今老人ホームで暮らしているたちも便利に過

ごせているんじゃないかな、と思いました。

介護してる人たちをみて、たくさんのお年寄りのために仕事している姿がすごく尊敬できました。人のために働いているのがすごくかっこよくて私もあんな風に働きたい、と思いました。介護師の人たちはいろいろなところを走りまわってサポートにまわるために、臨機応変に活動していくための電話を所持しています。連絡をすぐ取り合える状況にあるのはとてもいい環境だなあと感じました。建物内の設備やサポートにおいての設備がよく整っていたことが印象的でした。廊下に手すりがついているのもその一つに入るのではないか、と思いました。自分がもし介護施設を利用することになったとしたら、まず一番は家族や親戚にもきっと毎日会う、というのは不可能だと思います。ですから、その分、介護している人たちや一緒に利用している人たちと毎日楽しく過ごせることを望みたいです。

今回の体験を通して、お年寄りの方々が心から私たちが訪れることを楽しみにしていたことを知り、私たちがお年寄りの方々にできる

こ
とが
も、と
あるのでは、と思え
ました。まだ私たちは学生ですが、
学生でも助けるためのなにかを今
から考えることができると思いま
す。今回の体験で、これからの生
活に生かしていけるような役に立
つことを増やしていけるといいな
と思いました。